



みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 77
R6. 12. 10
(文責:校長 菅家 篤)

ドリーム & チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

月曜の朝に響く元気な「おはようございます！」の声

休み明けの月曜日は、表情が曇りがちな子ども達が少なくないのですが、昨日は違いました。子ども達の「おはようございます」の元気な声が、交差点に響きました。1年生から6年生まで、多くの子ども達が、相手に聞こえる声であいさつすることができました。

見守ってくださる方々に「ありがとうございます」の感謝の思いを伝える子もあり、清々しい一週間の始まりを迎えることができました。

保護者の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。



休み明けの月曜の朝、南っ子の元気な声が響きます!



いつもよりもう少し・・・

心に届く贈り物を子ども達へ

もうすぐクリスマスですが、17年前のクリスマスの日の新聞に、次の随想が載っていました。執筆された長瀬谷百合子さんは私の知人です。長瀬谷さんの旦那さんは、柳津町の「七日堂裸詣り」と一緒にチャレンジした戦友です。

クリスマスと贈り物

長瀬谷百合子 (喜多方市・主婦)

サンタクロースは、四世紀初めにトルコに実在した聖ニコラスがモデルだという。今では子どもたちが楽しみにしているプレゼントも、聖ニコラスが貧しい人々を助けたことが基になっているようだ。

さまざまな立場の人がいることを知り、助けようとするのは、宗教にかかわらず、忘れてはいけない気持ちだと思う。しかし、モノをあげるという行為だけが人を助けることではないということも忘れてたくないと思う。例えば、今日は子どもといつもよりもう少し遊んでやるとか、話し相手になることも、心を満たす贈り物になると思うのだ。心に届く贈り物ほど素敵なものはない。

今日は周囲に対して「いつもよりもう少し」を心掛けると幸せなクリスマスを過ごせるかもしれない。「いつもよりもう少し」という、ゆとりを持った日々が、暮らしを違った意味で豊かにしてくれるのではないだろうか。(2007. 12. 25 福島民友「民友随想」 文章後半のみ抜粋)

この随想を読んだ後、私は、限られた時間の中で、教師として、「私はどれだけの思いを子ども達の心に届けることができるのだろうか」という思いにかられました。



6年前、「空っぽ」のランドセルで小学校に入学してきた小さな子ども達も、今は大きな6年生になりました。6年間という長い年月の間に空っぽだったランドセルの中には、笑顔も涙も、思い出がいっぱい詰まったことでしょう。

以前、「モノより思い出」という自動車メーカーのテレビCMがありました。

親でありながら、教師でありながら、忙しく忙しい毎日の中で、子ども達とゆっくり向き合うことが難しい今の世の中です。そんな中でも、二度と帰って来ない小学校時代、子ども達にとって素敵な思い出をランドセルにいっぱい詰めることができるよう、「いつもよりもう少し」子ども達の心に寄り添いながら過ごしていきたいと思っています。